平成 18年8月28日

## 博士論文審査結果報告書

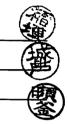
学位授与番号 医博甲第 1811 号 学籍番号 氏 名 大桒 麻由美

昌查審文館

主 査(職名) 稲垣 美智子(教授)

副 査(職名) 城戸 照彦 (教授)

**副** 査(職名) 須釜 淳子 (教授)



論文題目 A Prospective Cohort Study of Lower-Extremity Pressure Ulcer Risk Among

Bedfast Older Adults.

寝たきり高齢者における下肢褥瘡の発生要因に関するコホート研究

## 論文要旨

ー旦発生すると重症化する寝たきり高齢者の下肢褥瘡は課題となっているが、その発生率 や発生要因は不明である。本論文は発生とそれに関する要因を前向きに調査し、予測と介入 のための新たな指標を確立するために、寝たきり高齢者を対象に 1 年間前向きコホートスタ ディを行い、寝たきり高齢者の下肢褥瘡の発生率と発生要因を明らにした。

対象は、65歳以上の寝たきり高齢者で、調査開始時に下肢褥瘡を保有しない者。方法は発 生率を対象の毎日の皮膚観察は施設のスタッフが行い、褥瘡の判定は創傷ケアのスペシャリ ストである研究者が行うという方法をとり、文献検討により抽出した発生要因を要因と対象 の下肢褥瘡発生を調査した。分析方法は発生率は部位・深達度を記述統計し、計算式は人日 法を用いて算出した。また発生要因の分析は下肢褥瘡発生に寄与する要因を Cox 比例ハザー ドモデルで抽出し ROC 曲線を描き、その分離値を算出した。

その結果、発生率は 16.8 人年であり発生部位は足指に最も多く StageⅢ・Ⅳの深い褥瘡で あることが明らかになった。また発生要因は低 ABI 男性・長期寝たきりであること、さらに 最も下肢褥瘡発生に寄与する ABI の分離値は 0.8 であることを 明らかにした。

これらの結果から寝たきり高齢者の ABI は寝たきり高齢者の下肢褥瘡発生のスクリーニン グとして推奨できると示唆された。

## 論文審査要旨

この論文は、本邦の寝たきり高齢者において課題の一つである下肢褥瘡の発生とその発生 要因を、前向きコホート研究により追究した点で独創的な研究である。下肢褥瘡の発生要因 を抽出し、発生アセスメント項目として、ABIO.8 という具体的な分離値を提示したことは、 今後の臨床において実行可能な指標であり、価値ある示唆であると考えられる。公開審査に おいての質疑において、その内容、態度は的確且つ論理的であった。

以上より、本論文が博士(保健学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は 保健学における研究を自立して行うことに必要な髙度な研究能力を有すると認め、論文審査 を合格と判定した。